

三重県農業の将来を考える調査事業

(令和8年度)

1 事業の目的

今後20年、30年先の県農業の方向性を検討するにあたり、農業者や関係団体、有識者等が参画する懇話会を開催し、本県が新たに進めるべき方向性や必要な取組について意見を聴取するとともに、懇話会の開催を通じて将来の農業施策について検討を進めます。また、検討を進めるために必要な情報の収集や調査を行います。

2 事業の必要性

本県の農業を取り巻く環境は、人口減少や高齢化による農業の担い手の減少、夏季の高温など気候変動による安定生産への影響拡大、国際情勢の不安定化等に伴う資材高騰、国内人口減少によるマーケットの縮小など大きく変化してきています。

こうした状況をふまえ、将来を見据えた本県の農業振興を考えていくうえで、新たに進めるべき方向性や必要な取組について、専門的な意見を聴取することを目的に、三重県農業の将来を考える懇話会を開催します。

3 事業の内容

将来を見据えた農業施策の方向性を打ち出す必要があることから、懇話会を開催します。農産物の販路拡大等、農業全般にまたがる話題を懇話会本体で議論することに加え、品目を限定してより専門的な議論を行う部会について、令和7年度に設置した稲作部会に続き、茶や果実等、複数の品目についても新たに設置し、農業施策の新たな方向性についての議論を深めます。

4 事業費の積算

三重県農業の将来を考える調査事業 11,493千円

(県費7,247千円、国費4,246千円)

本県の農業を取り巻く環境は、人口減少や高齢化による農業の担い手の減少、夏季の高温など気候変動による安定生産への影響拡大、国際情勢の不安定化等に伴う資材高騰、国内人口減少によるマーケットの縮小など大きく変化してきています。

こうした状況をふまえ、将来を見据えた本県の農業振興を考えていくうえで、今後20年、30年先の県農業の方向性を検討するにあたり、農業者や関係団体、有識者等を招へいし、本県が新たに進めるべき方向性や必要な取組について意見を聴取するとともに、将来の農業施策について検討を進めます。また、検討を進めるために必要な情報の収集や調査を行います。

「三重県農業の将来を考える懇話会」開催事業（委託事業）8,493千円
（県費4,247千円、国費4,246千円）

（三重県農業の将来を考える調査事業 11,493千円の内数）

本県農業の持続的発展に向け、将来を見据えた農業の方向性を検討するにあたり、農業者や関係団体、有識者等が参画する懇話会および品目を特定した部会を開催し、農業の生産力強化や農産物の販路拡大など、力強い農業構造への転換に向け、新たに進めるべき施策の方向性や必要な取組について、意見聴取や、先進事例の調査などを実施します。